

【行政相談改善事例】 献血を控えるべき既往症例の明確化

相談要旨

献血の問診票の既往歴チェック項目には、「脳卒中」などの記載はあるものの、「脳卒中」に「くも膜下出血」が含まれる旨の記載はなかった。「くも膜下出血」（非外傷性）の既往歴がある者の献血は、リスクを伴うため禁止されていることから、「くも膜下出血」が「脳卒中」に含まれるということを、献血者にも分かるように明確化すべき

- 「脳卒中」の既往歴のある方が献血をすると、ご本人への健康リスクが懸念されるため、献血は控えることが推奨されている。
- 「脳卒中」には、「脳梗塞」、「脳出血」、「くも膜下出血」の3つが含まれる（※）が、医学的には常識であっても、必ずしも国民一般に理解が浸透している訳ではなく、くも膜下出血の既往歴をお持ちの方が社会貢献の思いで献血をされたが故にご自身の健康を危険にさらすことにもなりかねない。 ※ <https://www.ncvc.go.jp/hospital/pub/knowledge/disease/stroke-2/>
- 日本赤十字社に相談内容を伝え、安心して献血していただくようにするための方策は考えられないか打診したところ、同社において、次のような対応がとられた。

日本赤十字社の血液事業の対応

- ①研修会の開催等により、全国の血液センターに相談に至った事例の共有と注意喚起を実施。献血会場の健診医や受付職員にも伝達するよう指示
- ②事前問診回答の際に、既往歴で献血の可否を質問できるチャットボットへの誘導を促進するよう、献血Web会員サービス「ラブラッド」(<https://www.jrc.or.jp/donation/club/>)の仕様を変更。また、チャットボット内の「脳卒中」の表現を分かりやすく変更
- ③日本赤十字社血液事業のホームページに記載されている「脳卒中」の説明に、「脳卒中」には「くも膜下出血」も含まれる旨を明示(https://www.jrc.or.jp/donation/about/refrain/detail_01/)
- ④今後、問診票の表現自体を分かりやすい表現に見直し、献血管理システム、ラブラッドを改修することを検討（システム等の改修には一定の期間・経費が必要）

（注）対応は、令和7年11月4日時点のもの